

実施報告書

HT26036

獣医の卵達と一緒に、野生動物保護とその病気の関係について考えよう！



開催日：平成26年8月5日(火)～6日(水)

実施機関：酪農学園大学 構内全域
(実施場所)

実施代表者：浅川 満彦
(所属・職名) (獣医学群・教授)

受講生：小学・5・6年生 20名

関連 URL：<http://www.rakuno.ac.jp/article-26976.html>

【実施内容】

1. 注意点・工夫点

(1) 科研費の研究テーマである野生動物の寄生虫病について、子供たちに理解してもらうために「野生動物のお医者さん」というフレーズを用いながら、「野生動物を対象にした獣医師の本当の役割」「何が本当の野生動物保護なのか」「研究を行う意味」「科研費制度と研究内容」について2日間をかけて説明した。時間をかけながら徐々に掘り下げることで、子供たちにも深く理解してもらえるようなプログラム作りを心掛けた。

(2) 野生動物獣医師の体験として野生動物の捕獲ワナの設置・追放体験を行った。この体験を通じ、野生動物が我々の生活圏の身近な存在であり、野生動物の病気が我々ヒトや家畜にも影響をおよぼす可能性があることを子供たちに感じてもらった。そして、野生動物獣医師は怪我をした個体の治療も大切ではあるが、病気(異常)の解明を行うことがとても大切であり、それを可能とするためには“研究活動が大変重要である”という道筋を立てて、子供たちにも容易に理解できるように研究活動の意義を説明した。

(3) むいぐるみクマの捕獲・保護として吹き矢体験や、メスや針を使用し、食用の鶏肉を切開・縫合する等の野生動物の救護模擬体験を行った。これにより、一般的な野生動物獣医師の役割である、個体の治療の現場や実態、その難しさを体験してもらった。

(4) 寄生虫の説明については、代表者が行うだけでなく、学生にも発表時間を与え、現在学ぶ段階にある学生の視点から、より子供たちの理解を得やすいような講義方法を目指した。また、実際に多くの寄生虫の標本を用い、また各班に1つずつ顕微鏡を用意し観察させ、日頃、子供たちには馴染みの薄い寄生虫について観察体験を通して学んでもらった。

(5) イラストを多用したテキストを作成し、5-6年生の子供達が興味・関心をもてるように工夫をした。本事業のテーマのひとつでもあった「ワンヘルス」への理解については、紙芝居を用いて、子供の興味を引くとともに、わかりやすいよう心がけた。

(6) 参加者がすぐに打ち解け合えるように名札を用意し、また、アイスブレイキングとして互いの自己紹介を行わせた。

2. 実施の様子

本事業は、募集の段階から札幌市その他、道内各地からも問い合わせを受け、定員の20名をはるかに上回る参加希望があったため、選考を行わずに受け入れた。今回の事業だけでは、研究テーマに関心を寄せていただいたすべての参加希望者を受け入れることはできなかったため、是非、本企画は今年度のみで終わらせるのではなく、来年度にも引き続き行いたい。参加した子供達は、野外調査・観察会等ではワクワクドキドキした好奇心いっぱいの表情を浮かべる一方で、研究紹介の講義の際には、野生動物の保護活動について子供たち1人1人が真剣に考えている様子が印象的であった。そして、今回のプログラムを通じ、科学研究の内容への理解という当初の目的だけでなく、「調査研究のおもしろさや難しさ」も多少なりとも感じてもらえたと考えている。

【① 科研費や研究内容の説明】



【② 野生動物捕獲ワナ設置体験】



【③ 切開・縫合等】



【④ 野生動物の捕獲方法】



【⑤ 寄生虫にかからないためには…】



【⑥ 寄生虫標本の観察】



【集合写真 参加者20名】



3.当日のスケジュール

| スケジュール【1日目】 | | |
|-------------|------|--|
| 12:30-13:00 | 集合 | 研修館 |
| 13:00-13:20 | | 開講式（挨拶、オリエンテーション、科研費の説明） |
| 13:20-14:50 | 1時間目 | お話1）「野生動物の病気と保護活動」（途中10分休憩） |
| 15:00-15:30 | 2時間目 | 体験1）「野生動物捕獲ワナ設置実習」（演習林） |
| 15:30-17:00 | 3時間目 | 体験2）「獣医さんのツールを使ってみよう」（B4号館3F） （内容：切開・縫合等の手術体験、聴診器で体の音を聞こう、動物に麻酔をかけるには？（吹き矢体験））（途中10分休憩） |
| 18:00 | 解散 | |

| スケジュール【2日目】 | | |
|-------------|------|-----------------------------------|
| 8:30-9:00 | 集合 | 研修館（野生動物医学センターへ移動） |
| 9:00-9:30 | 1時間目 | 体験3）「身近な野生動物にアプローチしよう！」（野生動物放逐体験） |
| 9:30-10:20 | 2時間目 | 体験4）「追跡調査方法・鳥と獣の体の構造の違い」（途中10分休憩） |
| 10:30-11:50 | 3時間目 | お話2）「身近な寄生虫」 |
| 11:50-12:30 | 4時間目 | 体験5）「寄生虫と寄生疾病変の観察」 |
| 12:30-13:00 | | 昼食（大学生協2F食堂） |
| 13:05-13:15 | 5時間目 | 体験6）「鳥の目線でフィールドを見てみよう」（中央館屋上） |
| 13:20-14:00 | | 修了式（アンケート記入、未来博士号授与、集合写真撮影） |
| 14:00 | 解散 | |

4. 事務局との協力体制

事務は本事業の経費管理およびイベント実施に係る関係部署への連絡・調整、広報活動を担当した。

5. 広報活動

- ・本学周辺地域である札幌市ほぼ全域の小学生がいる家庭に1部配布される子供情報誌「エコチル」に募集案内を掲載した。
- ・本学園広報室と連携し、大学HPに募集案内を掲載した。

6. 安全配慮

- ・事故防止のため、イベント時は、研究補助等専門的作業に慣れている研究室の学生を実施協力者とし、実施前から入念な打ち合わせとテストを行い、安全配慮に努めた。
- ・受講者2名に対し、実施協力者を2名配置する形で班編成を行った。
- ・受講者および実施協力者である学生は、損保ジャパン レクリエーション補償プラン（傷害保険）に加入した。
- ・屋内・屋外にかかわらず、常に水分補給を行えるよう準備し、また、常に注意喚起を行うことで、熱中症防止対策を行った。
- ・当日は、雨天であったため、当初予定していたワナの設置の時間帯を天候を考慮し変更したほか、施設間移動の極力ない形に予定を変更し、参加者の安全に配慮した。

7. 今後の課題

・本事業は、募集の段階から札幌市他、道内各地からも問い合わせを受け、定員の20名をはるかに上回る参加希望があったため、選考を行わざるを得なかった。今回の事業だけでは、研究テーマに関心を寄せていただいたすべての参加希望者を受け入れることはできなかったため、是非、本企画は今年度のみで終わらせるのではなく、来年度にも引き続き行いたい。

また、進学を控えた小学校6年生の保護者からは、中学生向けの講座の要望もいただいたため、今後、将来的には対象者も含め、より発展的な取り組みとして継続して行っていけることを強く希望する。

【実施分担者】

なし

【実施協力者】

7名

【事務担当者】

玉田 哲也

学務部研究支援課・主任主事